

一般社団法人ロボカップジュニア・ジャパン
2020年度第4回理事会議事録

1. 日 時 : 2020年10月4日(日) 10:00~12:05

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議

3. 出席者

(1) 本人出席者 11名

大橋健、水野勝教、松原仁、今井俊二、中島晃芳、島谷太、野村泰朗、森重智年、小山航太、松山森仁、田中宏明(監事)

(2) 委任状提出者 0名

(3) 理事以外出席者 3名

前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)

4. 議 事

1. 2021名古屋大会について

- ・運営指針について
- ・会場プランについて
- ・予算について(大会参加費など)
- ・ブロックからの選抜方法について

2. その他

3. 議事録署名人の選定

5. 資 料

資料1 2021競技運営指針
資料2 会場プランA, B
資料3 2020和歌山大会・開催概要

6. 議事概要

(1) 議長の選出

①大橋代表理事が議長に選出され開会を宣言し、本総会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) 2021名古屋大会について

①運営指針について、森重理事より、資料1に基づき、年齢制限とNLのチーム人数に変更があった旨説明がなされた。ジャパンオープン2020和歌山大会中止を受け、特例措置として2021年大会に限り2020年和歌山大会の参加資格を有した選手のうち、2020年7月1日時点で20歳の選手が、2021年のノード、ブロック大会へ参加できることを明記した。また、NLではレスキューの年齢制限を中学生以下とし、チーム人数は1名から2名までとする旨、報告がなされた。また、ジャパンオープンが開催できず、世界大会が開催となった場合の選抜方法について、競技運営指針に記載すべきか否かの議論がなされた。水野専務理事より、現時点ではコロナの状況変化の把握は困難なため、開催できなかった場合の選抜方法は別途定めることとし、まずは運営指針を公開することとした。

②会場プランについて、水野専務理事より、資料2に基づき会場図面パターンA, Bの説明がなされ、意見を求めた。

・松山理事より、サッカーが図面上で想定されたチーム数は、従来のチーム数より少ないことが指摘され、充電コーナーとフィールドを隣接するよう要望がなされた。

・森重理事より、レスキューでも同様にチーム数の指摘がなされ、また、パドック内の机がチーム間で距離が3mも必要かとの意見がなされた。

・小山理事より、AパターンではOnStageの舞台が会場の中心に配置されており、音響等の問題があるため、他競技への配慮から舞台の位置を再検討が必要ではないかとの意見がなされた。

・田中監事より、観客席がないため、来場者を入れた場合、人がフィールドに近い通路に滞留し、密になることの懸念を示した。

・今井理事より、ポスターの展示場所の確認がなされた。前田事務局長より、会場外のホワイエに展示スペースがあるとの回答に対し、中島理事より、ポスターはWebで公開してはどうかとの意見がなされ、ホワイエへの展示は大会運営側と確認した上で検討し、ポスター審査はオンライン

で実施することで承認された。

前田事務局長より、以上の要望を踏まえ、和歌山大会と同程度のチーム数が参加することを前提に、新たにCパターンの図面を引くこととなった。

・中島理事より、会場の換気について質問がなされ、これに対し前田事務局長は、運営側で常時換気や出入口での検温、消毒等を行い、感染防止に配慮し進められているとの回答がなされた。また、中島理事から無観客で行ってはどうかとの提案に対し、前田事務局長は、開催委員会に決裁権があるため、RCJJに決定権はないが、年内に方向性を決定して欲しいと要望することはできるとの回答がなされた。

・大橋代表理事より、名古屋市は和歌山大会と同規模の参加人数を見込んで開催計画を立てているが、大規模なPRは控え、保護者やメンターのみ入場できる予定で進めており、今後も新型コロナウイルス感染症の状況を注視し開催準備を進めているとの説明がなされた。

③予算について、水野専務理事より資料3に基づき、大会参加費の額について意見が求められた。昨今の経済状況から保護者へこれ以上の負担を求めることは出来ないとの意見から、参加費は現状維持との見解で承認された。

④ブロックからの選抜方法について、水野専務理事よりノード、ブロック大会が開催できず、ジャパンオープンが開催となった場合の対応について意見を求めた。

・松山理事より、関西ブロックではノード大会の代わりにインタビュー、書類審査等で第一次選考を行い、競技別、地域別（大阪、和歌山）、日程別に分散して実施する予定であるとの説明がなされた。

・今井理事より、沖縄ブロックではこれまでノード大会はなく、チームが一斉に集まりブロック大会を実施していたが、今年は事前にグループ分けをおこない対戦し、その後日程を分散させたブロック大会を実施する予定であるとの説明がなされた。また、ノード、ブロック大会が実施出来なかった場合の選抜方法は、ブロックに一任するが、RCJJからは方向性を示すことにはどうかとの意見がなされた。

・中島理事より、ブロック長会議を開き、大会が開催できないブロックと意見交換をしてはどうかとの提案がなされた。これに対し、大橋代表理事より、日程の都合上、今からブロック長会議を実施するのは難しいので、アンケートを実施する提案がなされた。水野専務理事より、毎年行っている大会情報調査と同時にアンケートを実施してはどうかとの提案がなされた。

・ジャパンオープンが開催できず、世界大会が開催された場合の対応について協議がなされた。中島理事より、ブロック大会でジャパンオープン出場の資格を得たチームから、世界大会に出場したいチームを募り、その中から選抜を行ってはどうかとの意見がなされた。森重理事より、各リーグの技術委員で選抜方法を決定してはどうかとの提案がなされ、各技術委員で1月までに方向性を決定することとなった。

・水野専務理事より、ジャパンオープンへの海外チームの受け入れについて、エントリーが始まる2月頃には渡航制限が緩和されている可能性があり、受入れの可能性があるとに言及した。

(3) その他

①大橋代表理事より、ジュニアジャパンオープンに日本ロボット学会と人工知能学会の後援を依頼し、学会賞を設置してはどうかとの提案がなされ、満場一致で承認された。

②アジアパシフィックについて、水野専務理事より、年齢制限の下限が13歳以下となり、プライマリーリーグへの参加が可能となった旨、報告がなされた。

・大橋代表理事より、ジャパンオープンのWL上位チームをRCAP2021へ推薦し、下限が13歳になったことからNLの上位チームもフリーエントリーへの参加をバックアップすることで、NLの普及に繋がるのではとの意見がなされた。

③事務局より、次回総会において理事改選期となるため、理事選定方法等についての確認があった。大橋代表理事からは、方法等はメール審議を行い、次回理事会で候補者の選定を行うこととなった。

(4) 議事録署名人の選任

本日の議事録署名人として、松原仁氏、及び松山森仁氏にお願いすることとなった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2020年10月4日

議 長 大橋 健
議事録署名人 松原 仁
同 松山 森仁

